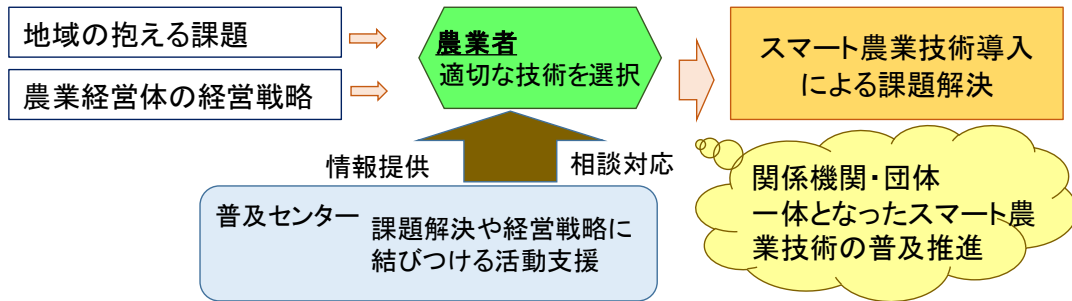


スマート農業技術の推進

～地域に適したスマート農業の普及～

釧路中西部支所地域係 地域一円

◇ 活動のねらい



1 活動の経過

(1) 相談窓口の開設と対応事項の整理

R3年8月 「スマート農業相談窓口」開設 相談を受付、対応	相談内容	} 毎月 整理
	スマート農業にかかる 普及活動	



写真1 普及センターへの看板設置

(2) 課題解決や経営戦略に向けたスマート農業技術の活用 主な支援内容は次の通り。

① ドローンによる農薬散布(飼料用とうもろこしすず紋病防除)

- 対象: 阿寒TMRセンター ➤ 試験的に実施
釧路TMRセンター ➤ 効率的な散布方法や防除効果を検証

② 営農管理システム(GPS作業記録システム「レポサク」)によるデータ集積

- 対象: TMRセンター ➤ データ集積(サルージ調製量、単収など)
トイピリカ ➤ 飼料給与、自給飼料改善への活用提案
(鶴居村)

③ ほ乳ロボット

- 対象: (株)M&S (白糠町; 協業法人)
- 集団ほ育に合ったほ乳量
 - 群への合流のタイミング
 - 飼養環境の改善
 - 社内検討会、バーンミーティング支援

④ 搾乳ロボット・エサ寄せロボット

- 対象: (株)M&S (白糠町; 協業法人)
- 飼養管理方法
 - 飼料給与量の調整を支援



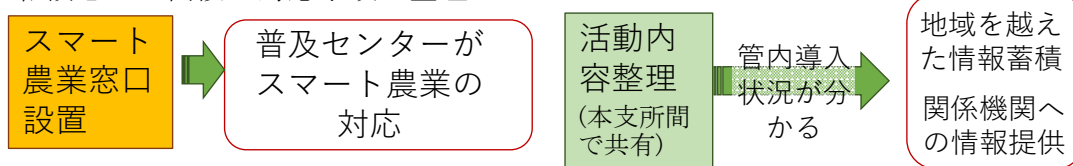
写真2 ドローンによる農薬散布



写真3 ほ乳ロボット検討会

2 活動の成果

(1) 相談窓口の開設と対応事項の整理

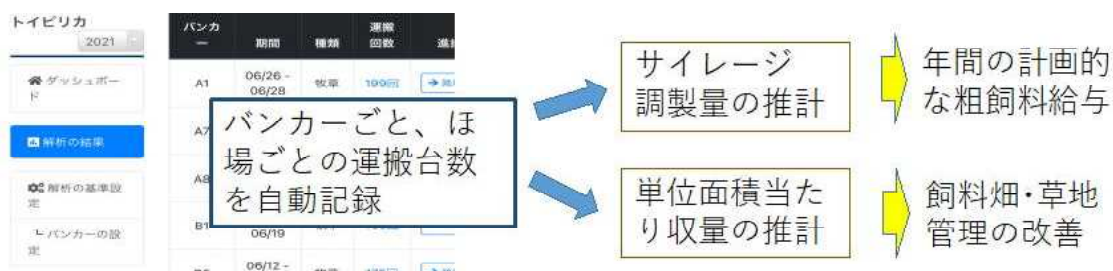


(2) 課題解決や経営戦略に向けたスマート農業技術の活用 技術面・運用面での知見が得られ、改善に結びつけた。

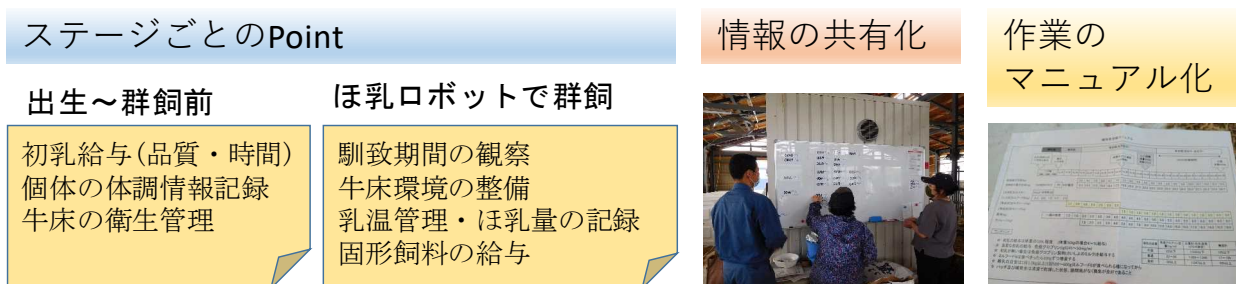
① ドローンによる農薬散布 (飼料用とうもろこしすず紋病防除)

項目	試験ほ	内容・結果	結論
散布方法 ほ場の額縁・全面散布を比較	阿寒ほ場	効果に差は見られない	コスト面から額縁散布を推進
作業体系 (必要な人数)	阿寒・釧路の パターンを比較	3人体制(オペレーター+監視2人) =15分/ha 6人体制(オペレーター+監視4人+調整作業員) =5分/ha	効率化には作業人員の確保が必要

② 営農管理システム(GPS作業記録システム「レポサク」)によるデータ集積



③ ほ乳ロボット



④ 搾乳ロボット、エサ寄せロボット



3 今後の活動

スマート農業技術導入に関する相談対応および情報共有の継続。
経営戦略や課題解決へ役立つような技術支援の継続。